

◎組合訪問記「基幹労連…IHI労働組合連合会富岡支部」

原点は「職場」と「組合員の声」
組合員に寄り添い、頼られ、信頼される組合に

Q1 労働組合の成り立ちや、支部の組合員数、役員体制は？

1998年、日産自動車宇宙航空事業部が、東京や埼玉の事業所を統合して富岡市(群馬)に移転。2000年7月にIHIに営業譲渡されてIHIエアロスペース(I-A)が誕生し、同年10月、労働組合も日産労働組合富岡支部からIHI労働組合富岡支部に移行しました。譲渡にあたって社員は親会社のIHIからI-Aへの出向という扱いとなりました。組合員はIHI労組籍となり、IHI労連の7番目の支部として現在に至っています。

組合事務所。開いているのが遠目にもわかるよう事務所の扉には「只今営業中です」の札が。



現在、I-A社に籍を置く組合員を中心に支部の組合員数は685名(男性574名、女性111名)、うち富岡事業所が626名。他に東京本社、種子島事務所、武豊事務所、IHI北陸支社などの組合員や群馬県内に所在する関連会社の労働組合も富岡支部の所属です。ただし、2012年にIHIからI-Aに移管された相生試験場は、引き続きIHI労働相生支部に籍を置いています。

支部の体制は、支部委員長、支部書記長、執行委員2名、職員1名。専従者はIHI労働の方針で2019年から3名に。IHI労働の議決権を持つ職場組合員の代表でもある中央委員が3名、職場で組合員をまとめる役員として支部委員21名、職場委員34名となっています。女性は、支部委員に1名、職場委員に2名とまだ少ないですが、IHI労働では男女共同参画委員会を設置し、女性が活躍できる環境づくりにも取り組んでいます。

賃金・一時金などの労働条件交渉は、IHI本社とIHI労働が行い、各支部の委員長が同席します。I-Aの業績がストレートに富岡支部組合員の処遇に反映されないというジレンマもありますが、安全衛生や労働環境、福利厚生、勤務管理体制などについては、I-Aと富岡支部が定期的に協議を行い改善を進めています。



支部執行委員長
大場 博之(専従)



支部書記長
丹羽 正人(専従)



支部執行委員
中川 大平
(専従/労働対策担当)



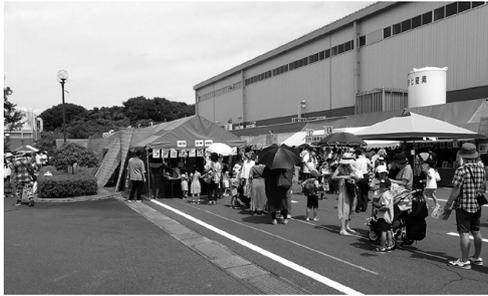
支部執行委員
佐俣 陽介
(非専従/組織対策担当)

Q2 労働組合の伝統の中で大切にされているものは？

面着(直接対面して話すこと)による「組合員との対話」です。営業譲渡で労働組合組織の移行を経験した先輩たちは、組合員との対話を大切にしながら、富岡支部としての一体感を高めてきました。現在は、毎年集中実施期間を設定し、年齢層や性別、職種など対象をしばって対話活動を実施。昼休みに昼食をとりながら、組合員6人くらいのグループと話をし、職場の悩みや組合への要望

2023年10月の組織改編で発足した支部執行部は4人体制。大場委員長は実験部出身で、支部書記長等を経ての就任。挨拶する機会が増えたが「挨拶は短く、懇親・懇談は長く」がモットー。丹羽書記長は2002年入社で宇宙輸送システム技術部出身。支部書記長を務めた後、2019年から4年間東京豊洲のIHI労働本部の役員を経験し、再び支部書記長に。中川支部執行委員は調達管理部出身で専従役員は初めて。佐俣支部執行委員は非専従で生産センター所属。組織対策担当として奮闘中。

基幹労連：IH労働組合連合会富岡支部



上／会社主催の「ロケット祭り」組合も協賛して開催(2023年9月) 下／ペットボトルを使ってロケットを製作。高く飛ばせたかな?! (2023年9月)

Q5 現在抱えている課題やその課題への対応は？

大場委員長 コロナ禍で、一人で問題を抱え込む組合員が増えたと感じています。労働組合の役割は一言でいえば「かけ込み寺」。組合員には「何かあれば遠慮なく、支部に話をしに来てほしい、雑談しに来てくれるだけでも大歓迎」と伝えていきます。

中川執行委員 課題は、ポストコロナのコミュニケーション。現在、組合員の約2割が2020年以降入社で、

組合活動やイベント参加の経験がなく、「何のために組合があるの?」と聞かれたりします。組合員にとってもっと身近な存在になりたいと、職場に出向いて話しかけるといいう「会いに行く労働組合」の活動を始めました。

佐俣執行委員 青年協議会が実施してきたスキー・スノーボードツアーなどのイベントを知らない組合員が増えています。コロナ禍前にすべて戻すということではなく、良いものは残しつつ、新たな取り組みにチャレンジし、組合の良さ・楽しさを若い組合員にもっと伝えていきたいです。

Q6 組合活動を進める上でモットーは? 自身にとっての労働組合とは?

大場委員長 組合活動の原点は「職場」と「組合員の声」。組合員に寄り添い、頼られ・信頼される支部をめざしています。そのために心掛けているのは「会話」と「傾聴」です。面着での会話だからこそ、相手の立場に立って聴くからこそ、本当の気持ちを知ることができず。

労働組合とは「組合員とそのご家族の安心・安定した生活のため」に活動する組織。笑顔で出社した組合員が笑顔で帰宅することができるよう、安全な職場環境を実現し、会社への貢献の対価を平等に還元させる交渉を進めていきます。

丹羽書記長 職場に信頼される存在になり、その信頼にしっかり応えていくことです。組合活動の主役は職場組合員。執行部は、組合員が安全・安心に働ける場を提供するためのアシスト機関だと思っています。先日、基幹労連の組織内議員である村田きょうこ参議院議員と意見交換の場を持ち大変好評でしたが、働く者の生活を良くし、会社を良くするための政策実現の取り組みについても、もっと理解を広げ、組合を応援してもらえるように頑張りたいです。

を聴いています。また、富岡事業所以外の組合員については、執行部が各地区を訪問しています。対話活動を通じて年間60件ぐらいいの要望が上がってきますが、改善につながった例は少なくありません。生産現場で働く女性が増えています。その対話から、女性用トイレの増設、除菌シートやトイレ用擬音装置の設置などが実現しました。地道な活動ですが、これからも大切にしていきたいと思っています。

Q3 労働組合の特徴的な活動は?

富岡支部の活動の目玉は、東京デイズニードの一部会場を貸し切って実施する組合員限定イベントでしたが、コロナ禍で中止を余儀なくされ、現在はチケット代補助制度に切り替えています。組合主催のゴルフコンペも伝統行事です。毎年9月の「ロケット祭り」は会社主催で、組合も協賛しています。ペットボトルで製作したロケットを飛ばすコーナーは、地域の子どもたちに大人気です。組合のニュースは、コロナ禍で一部メール配信に切り替えましたが、「紙」での配布にこだわってい

ます。職場役員が一声かける機会になるからです。

Q4 特に重点的に取り組んでいる活動は?

宇宙・防衛・航空機の3事業はいずれも需要が高く、職場はかなり忙しい状況です。製造現場は一部変則勤務で、二交替、三交替のシフトを組んでいますが、適切な労務管理がされているか、組合として注視しています。

というのも、数年前に労務管理についての相談を職場役員を通じて寄せられ、事実を確認した上で、会社側に適切な管理と基幹職の再教育などを求める「要請書」を提出したことがあったからです。意識改革は進んでいますが、依然として時間外労働に偏りが見られるため、引き続き負荷の分散を要請しているところです。

休暇取得は、労使で積極的に取り組んでいます。会社独自の「悠悠連休」制度(5連休または2連休+3連休の分割取得)があって、GW・夏季連休・年末年始休暇の他に各人で大型連休の計画的取得を促しています。年間労働時間はカレンダー協定で、火・水・木にある祝祭日をすらすらなどして3大大型連休を確保しています。

Q5 現在抱えている課題やその課題への対応は?

大場委員長 コロナ禍で、一人で問題を抱え込む組合員が増えたと感じています。労働組合の役割は一言でいえば「かけ込み寺」。組合員には「何かあれば遠慮なく、支部に話をしに来てほしい、雑談しに来てくれるだけでも大歓迎」と伝えていきます。

中川執行委員 課題は、ポストコロナのコミュニケーション。現在、組合員の約2割が2020年以降入社で、

組合活動やイベント参加の経験がなく、「何のために組合があるの?」と聞かれたりします。組合員にとってもっと身近な存在になりたいと、職場に出向いて話しかけるといいう「会いに行く労働組合」の活動を始めました。

佐俣執行委員 青年協議会が実施してきたスキー・スノーボードツアーなどのイベントを知らない組合員が増えています。コロナ禍前にすべて戻すということではなく、良いものは残しつつ、新たな取り組みにチャレンジし、組合の良さ・楽しさを若い組合員にもっと伝えていきたいです。

Q6 組合活動を進める上でモットーは? 自身にとっての労働組合とは?

大場委員長 組合活動の原点は「職場」と「組合員の声」。組合員に寄り添い、頼られ・信頼される支部をめざしています。そのために心掛けているのは「会話」と「傾聴」です。面着での会話だからこそ、相手の立場に立って聴くからこそ、本当の気持ちを知ることができず。

労働組合とは「組合員とそのご家族の安心・安定した生活のため」に活動する組織。笑顔で出社した組合員が笑顔で帰宅することができるよう、安全な職場環境を実現し、会社への貢献の対価を平等に還元させる交渉を進めていきます。

丹羽書記長 職場に信頼される存在になり、その信頼にしっかり応えていくことです。組合活動の主役は職場組合員。執行部は、組合員が安全・安心に働ける場を提供するためのアシスト機関だと思っています。先日、基幹労連の組織内議員である村田きょうこ参議院議員と意見交換の場を持ち大変好評でしたが、働く者の生活を良くし、会社を良くするための政策実現の取り組みについても、もっと理解を広げ、組合を応援してもらえるように頑張りたいです。